# 国際医療福祉大学大学院作業療法学分野のご紹介

修士課程2年(取得学位:修士(保健医療学))博士課程3年(取得学位:博士(保健医療学))

<連絡先> 分野責任者 谷口敬道

Email: taniguchi@iuhw.ac.jp

Tel: 0476-20-7701(呼出)



#### 進学することで身に付けられるリテラシー

- 日常の問いや疑問を、研究可能な疑問にし、系統的な探索を通じて解決するための「論理的問題解決技術」
- 先行文献を系統的に検索し、必要な文献を見つけ、内容を批判的に正しく理解するための「文献検索・読解技術」
- 量的データを、統計解析ソフトウェア(SPSSやR等)を使用し、正しく処理し分析するための「量的データ処理技術」
- 質的データを、コーディングやソフトウェア(NvivoやSCAT等)によって、正しく処理し分析するための「質的データ処理技術」
- 成果を論理的かつ魅力的に報告するための「プレゼンテーション 技術」



#### 大学院生の入学目的と作業療法学分野の教育方針

- 〇 学位の取得!
- 〇 臨床の能力!
- 〇 問題の解決!
- 〇 研究の遂行!
- 〇 講義の聴講!
- 〇 学修の機会!
- 〇 教員の指導!

興味のある活動 (=研究・議論)を通して

各自の探求心 真理の追求

論理的思考 科学性 思想と哲学

人間として正しく判断する力を 身につけた専門職の育成

国際医療福祉大学 学部教育、大学院教育のポリシー

各自の臨床力・指導力の向上

作

業療法

士

2022年度 211校220課程

卒前教育

自ら学ぶ力を 育て、作業療 法の基本的な 知識と技能を 修得する 2022年度 51校51課程

修士課程

多くの保健医療福祉専作者における作業療法・作業割・位置を俯瞰さる能力を培う

博士課程

専門領域の 知識・技術をよ り深める 博士(保健医療学)

修士(保健医療学)

作業療法学の基礎から応用実践に至る 各側面についての研究法の教授と実践

#### 【修士課程】修了要件と履修方法

#### 〇 修了要件

30単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

#### 〇 履修方法

授業科目	最低単位数		備考		
区分	必修	選択			
共通科目	2単位		研究倫理特論(2単位・必修)		
専門科目	16単位	7.4 1	作業療法の動向(2単位・選択)		
			講義[修士] I • Ⅱ 演習[修士] I • Ⅱ 研究指導[修士] I • Ⅲ • Ⅲ • Ⅳ 計16単位(各2単位•必修)		
合計	30単位以上				

#### 【博士課程】修了要件と履修方法

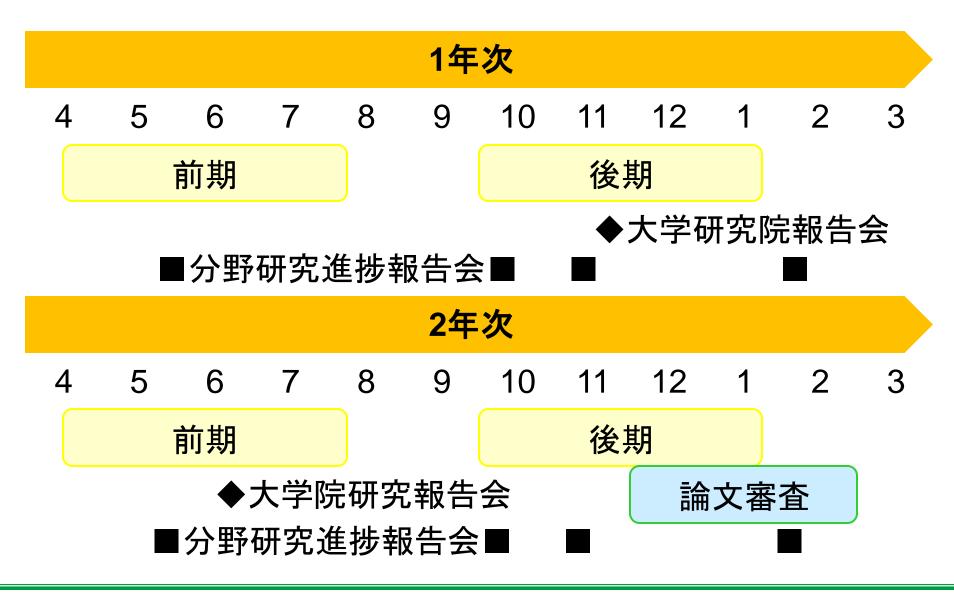
#### 〇 修了要件

12単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

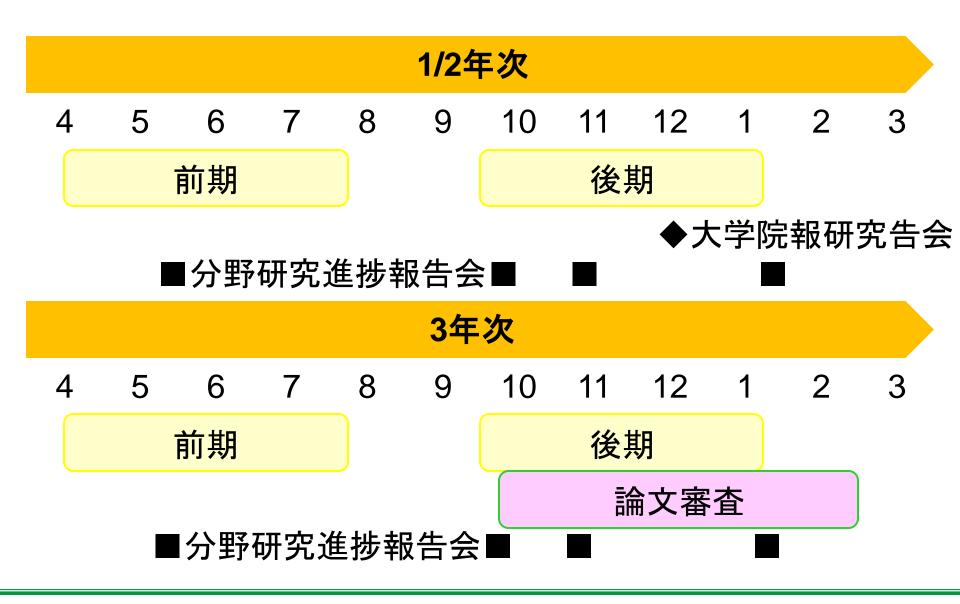
#### 〇 履修方法

授業科目	最低単位数		備考	
区分	必修	選択		
共通科目	2単位		研究倫理特論(2単位・必修)	
専門科目	10単位	-	講義[博士] 演習[博士] 研究指導[博士] I • Ⅱ • Ⅲ 計10単位(各2単位•必修)	
合計	12単位以上			

## 【修士課程】年間予定



## 【博士課程】年間予定



### 選択科目(必修)の講義・演習・研究指導

### 【修士課程】

講義	「研究倫理特論(e-learning)(1年前期)」の履修		
	「講義 I (1年前期)」の履修		
	「講義Ⅱ(1年後期)」の履修		
演習	分野研究進捗報告会への出席(年4回)		
研究指導	指導教員等からの研究指導(随時)		

#### 【博士課程】

講義	「研究倫理特論(e-learning)(1年前期)」の履修	
	「講義(1年前期)」の履修	
演習	「演習(1年後期)」の履修	
	分野研究進捗報告会への出席(年4回)	
研究指導	指導教員等からの研究指導(随時)	



#### 研究指導

各自の研究進捗に合わせて、対面・オンライン、個別・集団での研究指導を随時実施し、論文作成







### (参考)修士課程院生(作業活動支援学領域)の履修

<u>1年次 前期</u>

集中講義 研究倫理特論【必2】 月 6時限 支援学講義 I【必2】

水 6-7時限 分析学講義 I【選2】

e-learning 選択科目【選2】

進捗報告会 出席

研究指導 支援学研究指導 I【必2】

2年次 前期

月 6時限 (支援学) 水 6-7時限 (分析学)

進捗報告会 支援学演習 Ⅱ【必2】

分析学演習 Ⅱ【選2】

研究指導 支援学研究指導 工【必2】

1年次 後期

進捗報告会

月 6時限 支援学講義 Ⅱ【必2】

7時限 作業療法の動向【選2】

水 6-7時限 分析学講義 Ⅱ【選2】

e-learning 選択科目【選2】

支援学演習 I【必2】

分析学演習 I【選2】

研究指導 支援学研究指導 Ⅱ【必2】

2年次 後期

月 6時限 (支援学)

7時限 (作業療法の動向)

水 6-7時限 (分析学)

進捗報告会 出席

研究指導 支援学研究指導Ⅳ【必2】

進捗報告会 05/20、09/09、10/21、01/20土

計 【必修18単位】【選択14単位】



### (参考)博士課程院生(作業活動支援学領域)の履修

#### <u>1年次 前期</u>

集中講義 研究倫理特論【必2】

月 6時限 支援学講義【必2】

水 6-7時限 分析学講義【選2】

進捗報告会 出席

研究指導 随時

#### 1年次 後期

月 6時限 支援学演習【必2】

7時限 (作業療法の動向)

水 6-7時限 分析学演習【選2】

進捗報告会 出席

研究指導 随時

#### 2年次 前期

月 6時限 (支援学)

水 6-7時限 (分析学)

進捗報告会 出席

研究指導 支援学研究指導 I 【必2】

#### <u>2年次 後期</u>

月 6時限 (支援学)

7時限 (作業療法の動向)

水 6-7時限 (分析学)

進捗報告会 出席

研究指導 支援学研究指導 Ⅱ【必2】

(支援学)

#### 3年次 前期

月 6時限

水 6-7時限 (分析学)

進捗報告会 出席

研究指導 支援学研究指導Ⅲ【必2】

#### 3年次 後期

月 6時限 (支援学)

7時限 (作業療法の動向)

水 6-7時限 (分析学)

進捗報告会 出席

研究指導 随時

## ○ お二人の作業療法士が基盤を作った!

## 杉原素子先生

(1999年度~2022年度)

## 鎌倉矩子先生

(2001年度~2007年度)

## ◎ 勤務をしながらの学位取得が可能!

#### 〈授業時限での講義〉

時限	時間帯		
1時限	9:00~10:30		
2時限	10:40~12:10		
3時限	13:00~14:30		
4時限	14:40~16:10		
5時限	16:20~17:50		
6時限	18:00~19:30		
7時限	19:45~21:15		

必修科目:6-7時限開講

#### 〈オンラインでの講義〉

<u>必修科目</u>の講義は、コロナウィルス感染症の影響で<u>授業時限にオンラインで行っています。院生は自宅や職場などから講義受講可能!</u>

〈eラーニングシステムでの講義〉

eラーニングシステムを用いている 講義(**選択科目**)では、自宅や職 場などで、授業時限以外にイン ターネットを利用し講義受講、修了 に必要な単位取得可!

## ◎ 基礎から臨床まで研究環境の充実!

基礎医学研究センター 臨床医学研究センター 本学学生•院生 本学附属病院 院生職場 基礎研究 臨床研究 地域住民 (動物・学生を対象) (患者・住民を対象) 脳機能測定(EEG、fNIRS) 量的研究 視線測定、筋電図、 (実験・調査・シングルケース) 動作解析、重心動揺、等 アンケート、 質的研究 インタビュー、等 (事例・フィールドワーク・文献)

これまでの学位論文のテーマについては、「学位論文一覧」をご確認ください。



## ◎ 院生・教員が一堂に会する機会!

【2023年度作業療法学分野研究進捗報告会】

日程: 5月20日(土)

9月9日(土)

11月5日(土)

1月21日(土)

参加:院生•教員

内容: 研究進捗報告 • 討議



## 聴講可能です!

聴講を希望される方は、下記まで連絡をください。

分野責任者:谷口敬道(taniguchi@iuhw.ac.jp)

## ○ 大きく2つの領域で展開!

【作業活動支援学領域】

作業活動を提供する意味を考察し、作業療法の原理を探ります。また、作業活動適用に関する対象・種類・動機等について考察します。

〇月曜6時限(18時00分~19時30分)

【作業活動分析学領域】

人の日常生活や社会生活の基盤となる作業活動とその 遂行を科学的に捉える方法を通し、作業療法の実践に寄 与する研究を行います。

〇水曜曜6-7時限(18時00分~21時00分)

## ◎ 臨床1年目から多くの院生が在籍!

領域	M1	M2	D1	D2	D3
作業活動支援学領域	2	2	1	0	1
作業活動分析学領域	8	5	0	0	5

- ▪臨床経験1年目から幅広い年代の作業療法士の在籍
- 保健医療福祉施設に所属する臨床家の在籍
- •養成校に所属する教員の在籍
- 留学生の在籍

M1/2:修士課程1/2年生、D1/2/3:博士課程1/2/3年生

## ◎ 多くの研究指導教員が所属!

【作業活動支援学領域】

- ◎ 小賀野操 (大田原) 修士3名指導中
- ◎ 北島栄二 (小田原)
- ◎ 河野眞 (小田原) 博士2名指導中
- ◎ 藤本幹 (大田原)

【作業活動分析学領域】

- ◎ 後藤純信 (福岡・大川) 修士1名、博士2名指導中
- ◎ 谷口敬道 (成田) 修士10名、博士1名指導中
- ◎ 日田勝子 (大川) 修士1名、博士2名指導中

上記は主な指導教授となります。

各教員の詳細はホームページをご確認ください。

必要に応じて分野内外の専門知識をもった、教員から指導を受けることが可能。

## ○ 多種多様な科目を受講できる!

#### 【研究・教育の方法】

- ・修士・博士課程のための研究法入門
- ・症例に基づく病理学
- ・アンケート調査・インタビュー調査、フィールドワーク入門
- •統計学
- •質的研究法概論•各論
- •英語論文執筆演習
- ·<u>教育学概論</u>
  - ※養成校の教員になるための要件を満たした科目

#### 【人間・集団】

- •精神神経障害学
- 高次脳機能障害学
- •疫学概論

#### 【保健・医療・福祉】

- •精神保健•社会精神医学論
- •災害医療論
- •がん医療総論•各論
- •生活支援機器概論

#### 【医療・福祉の経営と管理】

- •医療経済学概論
- •医療管理学概論
- •医療福祉連携論

#### 【情報】

- ・医療情報システム概論
- •医療福祉面接記録法

#### 【特別講座】

- 医療福祉アントレプレナーシップ論
- 保健医療福祉研究のための日本語基礎

等

共通科目の一部となります。 上記以外に他分野の科目もあります。

## 9

## ○ 研究成果が作業療法学の発展に貢献!

524

作業療法・38 巻5 号・2019 年 10 月

□研究論文

#### 過活動型せん妄を伴う急性期脳神経疾患患者に対する 排泄行為への介入効果

坂下 竜也\*1.\*2 原 麻理子\*3 原口 權三\*3

要賞:急性期間神秘疾患に生じる遺伝動型セム安全・興国として、オムツ内への制度といった指揮 力はの変更がある。今回、通信動型と化安全件り急性期間神料疾患患者30名に対し、トイレへの 練器番客を行い、その前後でのセルタの有性と、セム反の封線期間との関連を質をした。その 来、排産誘導機に、せん安は有常に改善し即時効果を認めた。しかし、その後、せん安は再燃し改善は、同時であった。また単単に報告議事を行うと、せん安心特機期間は、類くなる傾向にあった。 排産活動のあた。また単単に報告議事を行うと、せん安心特機期間は、類くなる傾向にあった。 地震音音へのみたは、選ば婚型セとなって無性が必要され可能性が必要されて、 通信者へのみたは、選ば婚型セとなって無性が必要されて無性が必要されて、

作業療法 38:524~531, 2019

Key Words: 急性期、脳血管障害、頭部外傷、せん妄、排泄

はじめに

急性期における脳血管障害や領部外傷などの脳神経 板単は、同肢・体験の感覚や運動障害、逆びに心理や 精神機能の障害など様々で複様な症状を得免する。そ の一つが、せんをである。DSM-5<sup>1,2</sup>によると、せん 安は、「重要な神経器知障害の一つであり、往意の方 向付け、集中・窓知の障害が短期間(数時間一数日) のうちに発現することを特徴とし、医学的板型、衛質 中毒と離脱、海海への基準などによる直接の生態の影響

2018年4月24日受付, 2019年2月26日受理

Effects of intervention on toileting of patients with acute cranial nerve disease and hyperactive delirium

- \*1 福岡徳貴会病院リハビリテーション科
- Tatsuya Sakashita, OTR: Department of Rehabilitation, Fukuoka Tokushukai Hospital \*2 国際医療領征大学大学院保護医療学事政作業療法学分野博
- · 国際医療損祉大学大学院保養医療学専攻作業療症学分野博士課程 Tatsuya Sakashita, OTR: Doctor Course, Department of
- School of Health Sciences, International University of Health and Welfare 責任著者:取下卷性 (e-mail: stap6997@yahoo.co.jp)

0289-4920/19/¥500/釐汶/JCOPY

Presented by Medical 'Online

響の結果として、または不特定多数の要因から生じる」 と定義付けられている。

せんおは、非状により、不穏・悪寒・錯乱や幻覚な どの症状を示す過話動型、注意の低下・不活発・不適 切な会話を示す低活動型、両者の特徴を示す混合型と 大きく三つに分類され3、脳神経疾患患者に生じるせ ん安は、過活動型が最も多いとの報告がある4.また せん妄の持続は、入院期間の延長や死亡率を高める危 **韓田子とも報告されており<sup>5</sup>。早期の改善が求められる** 日本集中治療医学会によると、「せん姿の発生精度や 期間を減少するために、早期からの積極的な難床や四 技体齢の運動を中心としたリハビリテーション介入を 推奨する」とあり、リハビリテーション専門戦の関与 が必要不可欠であると述べている6. しかし、実際の 臨床場面では、過活動型せん姿を伴うと、安全上の管 理から身体抑制や薬物による行動制限が行われ、座位・ 立位などの難床活動やペッド上での整容・更衣といっ た ADL 訓練など、リハビリテーションの積極的な介 入の難しさに直面する.

このような急性期脳神経疾患患者に、せん妄が生じる要因の一つとして、排泄行為の変更が影響している との報告がある<sup>71</sup>. 若松ら<sup>81</sup>は、「排泄は人が生きてい く上で欠かせない行為であり、個人的な行為で誰もが 作業療法・38 巻 3 号・2019 年 6 月

□研究論文

#### 長期入院統合失調症患者の退院意向と個人因子

- Defeatist Beliefs と陰性症状の検討-

渡部 誠一\*1.\*2 杉原 素子\*3

要算:我が国の資産では、延期人院統合失興症患者のうち20~50%は退施電向を示さないとされ、 厚生労働者は、「国際に向けた電飲の機起」を装置している。本研究では、迂期人民能合定規程患 者の退施能向に関連する個人用子を明らかにする目的で、無神料解除に1年以上人際している統合 失興患患者20名を対象は、退施度向質関級、料率への形態向自己帰程である Defeatist Beliefs お よび態性症状を機能的に評価した。その結果、Defeatist Beliefs は退度を示さない際において有意 に重度で(p-0.001)、条規手を含めても有意を図識が認められた(p-0.01、未未無に10。 現施費的を示さない機合大規能患者の退除への意欲施起には、必要社会から入の原理者が示唆された。

Kev Words: 長期入院。統介失調症。心理・社会的因子。精神症状、退院

Presented by Medical Online

はじめに

投が国では精神病状数が世界的に高い水準にあり、 その選れは「失われた。如年」とも称される。、この ような数が国数したいもっ選手を取り戻すべ、この 東 成 16 (2004) 年に、精神保養福祉対策本部より精神 医療福祉改革ビジョンが示され、精神務例能入院患者 数サイルの地域が保険が単、進かられた。

厚生労働省(以下、厚労省)の患者調査によると、

2018年9月25日受付、2018年11月26日受理

Long-term hospitalization among patients with schizophrenia: Influence of Defeatist Beliefs, Negative Symptoms and individual factors on discharge intention

- \*1 医療法人總全会非須高原特能 Seiichi Watanabe, OTR: Medical Corporation Zizenkai Nasukowan Hognital
- \*\* 国際医療機能大学大学院保護医療学療士課程 Seiichi Watanabe, OTR: Master's Course, International University of Health and Welfare Graduate School of Health and Medical Science
- \*\*<sup>2</sup> 国際医療機能大学大学統件業療住学分野 Motoko Sugihara, OTR: Department of Occupational Therapy, International University of Health and Welfare Graduate School
- 責任者者:演移験→ (e-mail:sky\_flash\_scraper006@yahoo.co.jp)

0289-4920/19/¥500/釐汶/JCOPY

制神科人配用者数は、平成17 (2005) 年では32.3万人であったが<sup>2</sup>、平成28 (2014) 年には26.5万人と減少に転じた<sup>2</sup>、しかし、数分代質症においては、有 納率 19と一般的な疾患であるにも関わらず、長期人院を特徴とし、平成28 (2014) 年現在で約16.6万人の人院出者が報定され、その新合は、納料科人院患者の約62%と平数以上を占めている<sup>3</sup>、現在、厚労省は、在院1年以上の長期人院患者の地域終行を平成3 (2020) 年度まに出年成5 (2014) 年比一般より日本の大阪出去がまた。 万人、最か2.8万人と掲げている<sup>5</sup>、作業様法士も引き続きたな半共有して、長期人院患者の地域終行を目 計学ことが開始される。

作業療法 38:314~324, 2019

一方、長期人院皇帝の中には「選覧はしたくない」と選院産的を示さない研が指摘された。これまでの選 建設的資産でも繰り返し報告されているが。要査定 とに病期でや、在院期間の基準は異なるが、少なくと も1年以上の長期人院総合火頭信息者を対象とした調 主では、温院産的を示さない患者の割合は、大島ら の調査で20.1%。新他5<sup>10</sup>の調査で50.5%、Oshima 5<sup>10</sup>の調査では25.7%、大部5<sup>10</sup>の調査では25.9%と、 報告されている。このように、刺し並べ長期人院総 合火調剤の基本では325.7%、大部5<sup>10</sup>の調査では25.9%と 報告されている。このように、刺し並べ長期人院総 合火調剤の基金の5 200~50% 程度は、温度施剤を示 450 作業療法・39巻4号・2020年8月

□原薬論 文

#### 長期入院統合失調症者の 対人関係機能に陰性症状が与える影響

~対人関係機能の障害と陰性症状の重症度に関する探索的研究~

岡田 宏基\*1 平野 大輔\*2 谷口 敬道\*3

要算: 3個人 风奈を樹神博奈朴会生活所得民徒 (LASMI) で評価した対人関係機能の維养と Brief Negative Symptom Szale (1885) で新行した開始を吹い車億をの確認を会計し、継令を経済 判別する BNSS 得点カットオフ値を探求的に算出した。対象者は1年以上精神科病院に入院する統合 失選在高で、分析に加速中ロジスティック回帰分所、ROC自腐を使用した。無単、分析技能は53名 となり BNSS と関連が起められカットオフ側が20以下であった周目は10分 (16分 )、30~40 の範囲内にあった周目は自分性、友人付き合い、40~50にあった周目は10条。 記令、発活の明整 できゅった。接来の任金を担当する場合を収まり事では、多朴と機能として、当なると同様がある。

作業療法 39:450~458, 2020

Kev Words:統合失調症、対人関係、(陰性症状)、長期入院

背景

社会機能障害は、長期入院統合失調症者(以下、長 期入院者)の退院を阻害する要與の一つである<sup>3</sup>. 食 事や保険などのセルフケアを含む日常生活機能や他者 との安定的な関係を保つための対人関係機能などの確 言である社会機能能害は、地域生活を困難にする。ま た、これらの確省は一年以上の長期入院につながる可

2018年12月13日受付、2019年12月10日受理

The influence of negative symptoms on interpersonal relationship dysfunction among long-term hospitalized patients with schizophrenia: An exploratory study on interpersonal relationship functional disorder and severity of negative symptoms

- \* 医療法人基全会罪癌高原病院 Hiroki Okada, OTR, PhD: Medical Corporation Nasukou-
- \*2 国際医療機能大学成田保健医療学部作業療法学科 Daisuke Hirano, OTR, PhD: Department of Occupational Therapy, School of Health Science at Narita, Internation
- 「原形機構並大学保養医療学修作業機能学科 Takamichi Taniguchi, OTR, PhD: Department of Occupational Therapy, School of Health Science, International University of Health and Welfare

責任者者:岡田宏基 (e-mail: 17S3015@g.iuhw.ac.jp)

0289-4920/20/¥500/警定/ICOPY

他性がある「重度かつ慢性者」の基準家の一つとされ ている? 社会機能確実に影響を与える因子は無知機能 社会認知機能、非機能的認知などが挙げられる、認知 機能は、以前より地域生活機能や労働機能などの社会 機能を予測することが報告されており<sup>31</sup>, Green らは 認知機能が社会機能障害の要因の20~60%を説明す ると報告している<sup>6</sup>. Brekke らは、感情知覚や心の 理論を含む社会認知の障害は認知機能と密接に関連し ながら社会機能に影響を与えると報告している5. そ して、これらの障害は「私はいつも失致する」といっ た非機能的認知を生み出し、社会機能を障害する要因 の一つになっている9、これら寄与因子の中でも、陰 性症状が重要である可能性が高い。 各因子が社会機能 確実に至る経路を非分散構造分析の手法を用いて検討 した結果、除性症状が各因子を介在し社会機能に影響 を与えるバスモデルが示されている7、特に、対人関 係機能に対しては、ほかの因子とは無関係に影響を与 え<sup>8</sup>、コミュニケーション上の表現力を障害するほか<sup>8</sup>、 対人的な接触に対する興味・関心の欠如、社会的な交

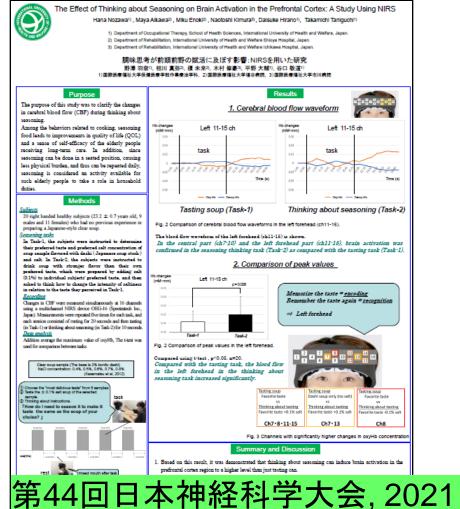
流を持つ際に感じる快楽の減少を引き起こす<sup>10)</sup>。 除性症状は、統合失調症の経過の中でも前駆期より

Presented by Medical Online

国際医療福祉大学



## 幅広い分野での研究成果が得られる!



RESEARCH ARTICLE

JOURNAL OF BIOPHOTONIC

Different brain activation patterns in the prefrontal area between self-paced and high-speed driving tasks

Daisuke Hirano<sup>1,2\*</sup> | Naotoshi Kimura<sup>1,3</sup> | Hana Yano<sup>1,2</sup> | Miku Enoki<sup>1,4</sup> | Maya Aikawa<sup>1,4</sup> | Yoshinobu Goto<sup>1,5,6</sup> | Takamichi Taniguchi<sup>1,2</sup>

Graduate School of Health and Welfare Sciences, International University of Health and Welfare, Minato, Tokyo,

<sup>2</sup>Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, International University of Health and Welfare, Otawara, Tochigi, Japan

<sup>3</sup>Department of Rehabilitation. International University of Health and Welfare Ichikawa Hospital, Ichikawa, Chiba, Japan

<sup>4</sup>Department of Rehabilitation, International University of Health and Welfare Shioya Hospital, Yaita, Tochigi,

5Faculty of Medicine, School of Medicine, International University of Health and Welfare, Narita, Chiba, Japan

Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences at Fukuoka. International University of Health and Welfare, Okawa, Fukuoka, Japan

#### \*Correspondence

Daisuke Hirano, Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, International University of Health and Welfare, 2600-1 Kitakanemaru, Otawara, Tochigi 324-8501, Japan. Email: dhirano@iuhw.ac.jp

#### Abstract

The purpose of this study was to investigate the effects on prefrontal cortex brain activity when participants attempted to stop a car accurately at a stop line when driving at different speeds using functional near-infrared spectroscopy (fNIRS). Twenty healthy subjects with driving experience drove their own cars for a distance of 60 m five times each at their own pace or as fast as possible. The variation



in the distance between the stop line and the car was not significantly different between the self-paced and high-speed tasks. However, oxygenated hemoglobin concentration in the prefrontal cortex was significantly higher in the high-speed task than in the self-paced task. These findings suggest that driving at high speed requires more divided attention than driving at self-paced speed, even though the participants were able to stop the car at the same distance from the target. This study shows the advantages and usefulness of fNIRS .

attention, automobile driving, automobiles, healthy volunteers, near-infrared, oxyhemoglobins, prefrontal cortex, spectroscopy

Journal of Biophotonics, 2022

#### 博士課程修了生(臨床15年目入学)からのメッセージ

#### ■進学理由

博士課程には修士課程で新たに生まれた疑問を解決したいと考えて進学しました。また、博士課程で求められる新規性、つまり研究として世界で明らかになっていない部分を自身が証明することに挑戦するつもりで進みました。

#### ■本学の魅力・大学院進学を検討中の方へ

本学の魅力は、様々な分野の作業療法士が集い、院生として自らが興味のある分野や事象について探求することを作業療法学分野の先生方だけではなく、他分野の先生方も励行し、惜しみなく指導してくれる点であると思います。そのような環境の中で、先生や院生間で議論をし、自分の臨床、研究、論文に向き合い、自分の生活にも向き合い、研究だけではなく物事を俯瞰した見方をできるようになる機会が得られることも大きな魅力だと思います。

#### 博士課程修了生(臨床12年目入学)からのメッセージ

#### ■進学理由

他大学院の修士課程において、精神保健福祉領域のピアサポートに関する研究に取り組みました。その研究によって新たな課題が明らかになり、博士課程に進学し、研究を継続したいと強く思っていました。学生としての最後は母校でという気持ちがあり、ご縁を頂けることになりました。研究をするにあたり、幅広い見識を備えた先生方の存在や、働きながら通学しやすい環境も決め手でした。

#### ■本学の魅力・大学院進学を検討中の方へ

大学院を目指す皆様の中には、仕事やご家庭を持たれている方々が少なくないのではないでしょうか。本学は夜間の授業が主体であり、オンライン環境も整備されています。また、自宅のパソコンからの講義受講も可能であり、文献検索もお手元のスマートフォンやパソコンから行えます。そして、共に学ぶ院生の数も多く、互いに研鑚し合える環境が魅力です。

#### 修士課程修了生(臨床3年目入学)からのメッセージ

#### ■進学理由

当時、大学病院での臨床3年目であり、経験を積む中で持った疑問や主観的な印象を、研究という形にして検証する方法を学びたかったです。職場が大学関連施設ということもあり、上司の理解もあったため、挑戦したみたいと思い、進学しました。

#### ■本学の魅力・大学院進学を検討中の方へ

働きながら大学院に通う上で指導教員の理解がありました。指導日をこちら側に合わせてくれることや、業務を優先させてくれること、オンラインを使用して研究の進捗状況の報告を業務後の遅い時間等にも設定してくれること等、多くの先生方が院生の都合に合わせて指導をして頂けました。そのため、業務を優先しながらも大学院での勉学を継続することができます。

### 修士課程修了生(臨床1年目入学)からのメッセージ

#### ■進学理由

関連施設への入職がきっかけであり、多くの職場の先輩も大学院に進学していることで、新社会人として病院勤務しながらも大学院に通うことに対しての周囲の理解が得られる状況であったことが一番の理由になります。また、自分のキャリアアップのためを考えていました。大学院での学びは将来、作業療法士としての知識や考えがより一層深まると思ったからです。

#### ■本学の魅力・大学院進学を検討中の方へ

本学の魅力は、病院勤務をしながらも大学院に進学でき、両立させながら研究も実施できるところだと思います。大学院での研究はとても取り組み難いイメージがあるかと思いますが、自分の興味のあることや疑問に思うことなど身近に感じることから研究を進めていくため、その分野での知識が自然と身に付きます。自分の知りたいことが深められる良い機会であって、研究の面白さを感じることができます。

